

## 第2回小中学校給食運営委員会議事録

日時： 令和元年7月23日（火）午後5時30分～6時15分

会場： 中央公民館 1階研修室1・2

### 司会（齋藤主査）：

皆様、お疲れ様です。学校給食センターの齋藤です。  
定刻若干過ぎましたけれど、ただ今より令和元年度第2回北広島市小学校給食運営委員会、北広島市中学校給食運営委員会を開催いたします。  
本日は、お手元にお配りしております議案書に沿って進めてまいります。委員の皆様より多くの意見を伺いたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして教育部長より一言ご挨拶を申し上げます。

### 千葉教育部長：

こんばんは。教育委員会の千葉でございます。本日第2回目の給食運営委員会にご参集いただきまして誠にありがとうございます。

前回、第1回目の運営委員会ということで5月28日に開催いたしまして、その中で今年度の学校給食の献立につきまして粗々に説明させていただいたこと、それと給食費の関係でございますけれども、昨今物価上昇、特に食材費等の上昇によりまして給食費の食材に関する部分で圧迫されているという給食費の食材に関わる現状をご説明させていただきまして、今後来年度に向けまして給食費を増額する改定をさせていただきたいという方向性を皆さんにご協議いただきまして、皆さんの方から改定についての一定の承認をいただいたというところでございます。

本日、第2回目のこの運営委員会におきましては、前回改定についてご承認いただきましたことから、その後給食費につきまして、どの値の給食費がよろしいかという事で試算をして参ったところでございます。本日皆さまの方に給食費の改定にかかる素案につきまして試算しましたので、これをご説明し、ご意見をいただきたいというところでございます。

またその他としましては、前回もその他の中で触れさせていただきましたが、給食で使用している食器の素材についてということで、今日実際に食器のサンプルをお持ちしておりますので、それを見ていただきながらですねご意見をいただきたいというところでございます。

本日開催にあたりまして、各委員の皆さんに忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

**司会（斎藤主査）：**

本日も小学校・中学校合同開催となっております。

本日の議長につきましては中学校給食運営委員会の委員長であります、西の里中学校高松校長先生にお願いしたいと思っております。それでは、高松校長先生、よろしくお願ひいたします。

**高松委員長：**

皆さんこんばんは。ただ今ご紹介いただきました西の里中学校高松と申します。事務局より説明がありましたが、本日の進行を務めさせていただきますので、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、まず始めに会議の成立について事務局より報告を求めます。

**【 会議の成立について 】**

**事務局（斎藤主査）：**

本日は、小学校給食運営委員 10 人、中学校給食運営委員 9 人が出席されておりますので、北広島市学校給食センター等設置条例施行規則第 3 条第 4 項の規定により、会議は成立することをご報告いたします。

また、本日の運営委員会につきましては、北広島市情報公開条例第 20 条に基づき原則公開とさせていただきたいと考えております。以上でございます。

**高松委員長：**

ただ今、事務局の報告により会議は成立いたしましたので、このまま会議を進めてまいります。

それでは会議次第の 4 番議案に入らせていただきます。「議案第 1 号 給食費の改定について」事務局から説明お願ひします。

**事務局（須貝センター長）：**

学校給食費の改定につきまして、ご説明いたします。

本市の学校給食費ですが、直近では、平成 26 年に改定を行い現在の給食費となっております。改定以降、主食単価、牛乳単価が上昇し副食食材費を圧迫しており、副食食材費自体も値上がりしている状況で、このまま現在の給食費で据え置いた場合、国産品基本の食材調達や地場産物の使用ができなくなり、安全安心で栄養バランスのとれた魅力ある給食の提供が難しくなりつつあります。

今後も、給食で提供する栄養バランスのとれた給食の質を維持するため、給

食費の改定に関し以下のように試算しましたので、素案を提示いたします。

### 1. 小・中学校給食の主食単価の内訳です。

(1) 小学校給食費は、低学年から中・高学年まで260円、263円、266円と3段階の単価となっておりますが、平均単価263円で試算しております。

主食は、週5日のうち米：3回、パンと麺：それぞれ1回ずつ提供しておりますが、主食の平均単価は、平成26年から平成31年の5年間で8.5%上昇し、牛乳は12.0%上昇していることで、副食（おかず）に充てられる額が、10.3円（6.4%）減少しております。

(2) 中学校給食費は、1年生から3年生まで同一の315円で試算しております。小学校と同様、週5日で米3回、パンと麺それぞれ1回ずつ提供しており、主食の平均単価は5年間で7.4%、牛乳は12.0%上昇し、副食に充てられる額は8.5円（3.8%）減少しております。

### 2. 副食食材価格の上昇ですが、「北海道の消費者物価指数」では、平成26年から平成30年にかけて食料全般が8%上昇しております。

参考として、学校給食で使用する主な副食食材について、平成26年と平成30年の価格を比較しておりますが、そのほとんどの価格が上昇していることをご理解いただけたと思います。

また、本年10月に消費税率引き上げが予定されており、学校給食用食材購入には軽減税率が適用となり8%で据え置かれる見込みですが、食材自体の価格上昇が想定され、今後の購入に影響があるものと考えております。

### 3. 新給食費の試算です。

小学校給食費の試算ですが、まず現在の平均単価263円を基準として、副食価格減少分の回復額10.3円と、平成26年の副食食材価格160.09円に平成30年にかけての上昇分8%を乗じた額12.8円を加え23.1円、四捨五入し23円を増額改定額として、現在の単価にそれぞれ加え、低学年283円、中学年286円、高学年289円と試算いたしました。

新たな額に、今年度の給食回数をかけますと表に示す額となり、低学年では年間4,094円～4,462円、中学年では4,186円～4,462円、高学年では4,163円～4,439円それぞれ増額となります。

同じく中学校の試算ですが、現在の単価315円に、副食価格減少分の回復額8.5円と、平成26年の副食食材価格226.62円に平成30年にかけての上昇分8%を乗じた額18.1円を加え26.6円、四捨五入し27円を増額改定額とし、現在の単価にこの額を加え342円と試算いたしました。

新たな額に、今年度の給食回数をかけますと表に示す額となり、年間 4,455 円～5,211 円増額となります。

#### 4. 他市との比較想定ですが

仮に、本市で試算した同様の改定率を、他市の現在の給食単価で算定した場合は、表のようになりますが、あくまでも参考数値であることをご理解ください。

恵庭市につきましては、今年度から改定しており3年間で最終改定額となります。なぜ、恵庭市は3年かけたのかですが、「一気に値上げすると保護者負担が大きい」との理事者判断から、段階的に改定することとなったと担当者から聞いております。これでいきますと、江別市さんが小学校中学校とも本市の試算した額よりも9?円～13円多いこととなります。千歳市さんでは小学校の低学年では我々の試算分よりも14円安くなり、高学年ではほぼ同じ、中学校では北広島市よりも12円安くなるということが出ました。あくまでも参考値であります。

#### 5. 今後ですが

9月末頃までの間に、給食だよりにて保護者宛て情報提供をさせていただきまして、また第3回小中学校給食運営委員会、9月末で予定しておりますけれど、正式に新単価(案)を提示させていただきたいと考えております。その後10月～11月には教育委員会会議及び議会常任委員会に報告、11月～12月にかけてパブリックコメントを実施し、年明けの1月には、新年度予算の積算に計上させていただきたいと考えております。

以上で、給食費改定の説明を終わります。

#### 高松委員長：

ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありましたが、各委員の皆様から、ご意見・ご質問はございませんでしょうか。

#### 山村委員：

北の台の山村でございます。保護者の方もいらっしゃいますし、傍聴の方もいらっしゃるので、非常に勇気をもってお話をしなければいけないなという思いでありますが、値上げについてはこの前の給食委員会で概ねそれでいきましょうという話で確認をされたということで、さっきも確認されましたね。

それで、なんで私が勇気をもってお話をするかというと、この値上げで大丈夫

夫なんですかという質問です。つまり今のお話だとそもそも上がっているものがあって、しかも副食もデイショウ？しているから上げるということになりますよね。

ということは、この額だとまたこの後、この間の選挙もあっておそらく消費税とかの事も考えたり、物価上昇という事を考えた時に、この試算の部分だけでは間に合わないんじゃないのかっていう心配をするんです。

この発言をするということは、もうちょっと上げた方がいいんじゃないですかという事を言っているのと同じなので、なので保護者の皆さんとか、傍聴の方がいらっしゃる中でとても勇気をもって言っているっていうのはそういう意味です。

ただ、先程の4番ともちょっと関わっちゃうんですけれども、他市町村では段階的に上げたっていうのが、市民感情というものもあってというお話もあったのはわかるんですけれども、また上がったのかまた上がったのかっていうよりも、ある程度次を見越して上げるっていうのも一つなのかなという風に思ったりもするんですよ。

他の市町村で言って悪いんですけど、例えば千歳はうちの市からすれば安いですよ。だけど、安いだけの物です。これは僕ら千歳に居た人間はわかっているんで、やっぱり北広ってすごく給食美味しいんですよ。で、すごく良くしてくれてるし、美味しいし。

だけど他の市町村から比べると何が少ないかって言うと、例えばパンにジャムがあまりつかないとか。ご飯にふりかけがつかないとか。きっとそういう所で給食センターさんは非常に努力されていると思うんですよ。だからそう考えたときに、この値上げの部分で大丈夫なんですかという意見は、そういう意見です。

すみません、回りくどくなりましたが、以上です。

#### **高松委員長：**

これに関して、他の委員の方はどうでしょうか。

(特に意見が出ないので)事務局からは見解はありますか。

#### **千葉教育部長：**

先を見越した…上昇分も見込んだ方がよろしいのではないかというご意見かと思うんですけれども、ただ今後どれだけ上がるかっていう事を我々ちょっと予測しかねるところがございます。

前回の値上げもそうですが、やはり現時点での価格に合わせた中で、給食費を設定させていただいて、その後増加した分については、今までのこの5年間

もそうなんですけれど、どこかで、献立とか、材料の仕入れの方とか、どこかで工夫したりですね、そういう経営努力の中でなんとか賄ってきている状況でございます。

ですので、段階的に上げるっていう部分につきましても、そういう市町村もあろうかと思いますが、これにつきましては、結局段階的に上げるっていうことは、上がるまでの間どこかで圧縮しなければならないという事になりますので、基本的には一回で、一発で値上げさせていただきたいという今の考えはございます。

それと、上昇分の見込みの分ですけれど、やはり、もし仮にですね、今8%くらい上がっているという事になってますけれど、例えば2、3年後のうちに急激な上昇があった時は、またその時に考えさせていただいて、協議させていただくという形をとっていくしかないのかなという風に思います。

恵庭さんみたいに段階的という考えも一理あるかと思いますが。ただその段階の時にまた物価上昇があった時に、果たしてその段階的なものですね、有効なのかどうかという事もちょっと。

それはその時の判断によるのでどれがいいかっていうのは、どれを選択するかによると思うんですけれど、今の給食センターの考えはそういったところで居ますので、この5年間のサイキ？を埋めて、現状の価格でリスタートしたいと、そういったところでございます。

#### **山村委員：**

丁寧なご説明をいただいたので、私は原則賛成なんです。

賛成だけれども、足りないで、経営努力っていう部分できっと給食センターさんも大変だろうなっていうところを思っただけの発言だということでご理解いただきたい事と、やっぱり安心・安全なんですよね。

なにか経営努力って言っても色々、そうなる色んな事を考えられた時に、何か起きるのは嫌だし、そうなるセンターさんも大変だろうし、何日間か給食が出ないとかってなるとこれはまた保護者の皆さんにも大変なので、安心・安全と値上げって事を考えたときに我々は安心・安全を取るべきだなって私は思うんで、原則賛成だという事も含めての意見でございますので、よろしくお願いします。

#### **千葉教育部長：**

ありがとうございます。

#### **高松委員長：**

ありがとうございます。

他の委員の方から他にご質問・ご意見ございませんか。今、山村校長先生から学校にいる教職員という立場でお話ししていただきましたが、保護者の方々の、それぞれの立場でどうでしょうか。

**村尾委員：**

西の里中学校の村尾と申します。

今、小学校の給食センター新しくされると米飯が自校方式になるかと思うんですが、その際、炊飯にかかる経費が下がりますよね。

その時はどうされるんですか。

**千葉教育部長：**

今の段階でどうするっていうのは決めていないんですけど、単純に言うと今言われた通り、現在の給食センターでは自炊していませんので、外部に委託ということでその分小学校の給食費が他の学校や市町村と比べると若干高いんですけど、そこについては新しい給食センターが稼動する時にですね、また給食費について考えていかなければならないという風に思っております。

現実問題その段階でまた食材費も値上がりしている事も想定されますので、今の段階で落とすとか維持するとか上げるっていうのは断定できない状況でございます。

**村尾委員：**

その時にまた考え直してくれるっていうことですね。

**千葉教育部長：**そうですね、はい。

**村尾委員：**わかりました。

**高松委員長：**

他の方、どうですか。

**千葉教育部長：**

ここは先程センター長から申し上げました通り、あくまで今回試算したうちの率と同じ率をかけている江別とうちとそういうのはかけてますので、この会計率、市によって高いところもあれば低いところももしかしたらあるかもしれません。

元々の、現在の単価がそれぞれすでに違うというところにございますので、その辺を加味しながらご確認いただきたいなという風に思います。

**高松委員長：**

どうでしょうか。

全体通してご意見・ご質問どうでしょうか。

特に無いようですので、議案第 1 号については、本日の素案を元に事務局において検討を進め、次回の委員会で改めてみなさんにお諮りするということによろしいでしょうか。

【異議なしの声あり】

**高松委員長：**

続きまして、会議次第の 5 「その他」になりますが、事務局からお願いします。

**事務局（岡参事）：**

7 月 1 日付けで、教育委員会の参事として、防災食育センターの整備を担当させていただくことになりました。岡謙一と申します。

勉強不足の面、多々ございますが、どうぞよろしく申し上げます

さて、現在、計画を進めております仮称：防災食育センターは災害時には避難所への炊き出し施設として機能し、本市の防災の拠点となることから、防衛省の補助を活用して事業を進めるべく、現在、北海道防衛局と調整を進めているところであります。

本日はこの防災食育センターにおいて、今後、選定を進めていくこととなる、小学校の食器について、お手元の資料「道内の給食センターで使用されている食器の材質について」に基づき、ご説明をさせていただきたく存じます。

まず、現在、学校給食の場において、PEN樹脂の食器をはじめとした「樹脂製の食器」とそれと「磁器製の食器」が使われている状況にございます。

本日はサンプルを用意させていただきました。

1 つ目は強化磁器製の「ご飯（米飯）用の給食」「麺類の給食」



2つ目はPEN樹脂の食器の「ご飯（米飯）用の給食」「麺類の給食」  
それと、参考として、現在使用している小学生用のPEN樹脂製の「ご飯（米飯）用の給食」であります。

大まかな特徴としては、

強化磁器食器は、硬く傷がつきにくく、一般家庭で使用されている陶器類と似ていることから、家庭に近い環境で給食を喫食できることが特徴とされております。

反面、樹脂製の食器と比べると重く全体的にかさばること、また、割れやすく、輸送中などに破損し、給食に異物が混入するなどの事案が生じているところであります。

樹脂製の食器につきましては、「軽く、割れにくい」のが特徴であり、重さは強化磁器食器に比べ約半分、破損率についてはPEN樹脂の食器は0.1%、強化磁器食器は10%とされております。

これらの食器の使用の状況については、お手元の資料をご覧くださいたく存じます。

まず1番目「北海道の調査」であります。今現在北海道の調査結果によりますと、全道1,025校のうちの716校、69.8%、約7割、こちらが樹脂製の食器を使用しております。磁器性の食器の方を使っていますのが373校36.4%となっております。

次に2番目「旭川市の調査」であります。旭川市の方で独自で調査を実施したところです。道内179市町村ございますが、このうちの72%、全国の中核市が48ございますが、このうちの31市、65%がPEN樹脂を使っているという状況でございます。

次に3番目「近隣市の状況等」であります。こちらは北広島市も含めました近隣の自治体の状況を記載しております。網掛けをしているところが強化磁器を使っている自治体、江別市さん、石狩市さんという形になっています。

ご覧になっていただけるとわかるかなと思うんですが、比較的壊れやすいというのがありまして、年間の更新費用が若干嵩んでいるかなというような状況でございます。

4番目の特記事項としまして、これは私どもの方で聞き取りをさせていただ

きました。江別市さんの方からは破損率が全体で4%という形で、破損したもののについては予算対応が課題になっていますとのお話を伺っております。

石狩市につきましては、小学校の方はやはり破損の頻度が高いということで報告を受けています。あとは輸送途中での破損が目立つ傾向にありますと。

あと小樽市さんはPEN樹脂であります。これは平成25年の施設整備の際に強化磁器の方も検討されたんですけど、やはり破損のリスク等々、総合的に判断してPEN樹脂の方を採用したというような聞き取りの回答を得ております。

続きまして裏面をご覧ください。こちらは5月の28日の運営委員会の際にお配りした資料を若干、加筆・修正したものでございます。両方の食器の特徴を取りまとめたものとなっております。

現在、本市におきましては、先程サンプルとしてお配りしましたが、小学生のおかず（副食）のお皿は1枚（1プレート）としておりますが、防災食育センターが稼動するときの新しい食器の選定におきましては、食育の推進の観点から、お皿を1枚から2枚として考えておまして、より家庭に近い環境の充実に努めてまいりたいと想定をしているところでございます。

まとめというような形になってしまうんですけども、磁器製の食器については、家庭で使われている陶器に似ている質感や手触り・重さなどが大きな特徴であります。輸送時の食器の破損により子どもたちの給食に異物が混入する事実がございます。

また、給食の配膳時など食器を運ぶ時の児童や教職員の方々の重さ的な負担、そして災害時には避難所への炊き出し用の食器として使用・活用も想定されることから、これらのことを総合的に勘案し、本市におきましては、引き続きPEN樹脂の食器を使用してまいりたいと考えております。

本日は委員のみなさんから忌憚のないご意見をいただくと共に、次回の9月末に予定しております本運営委員会において、改めてご協議いただき一定の方向性を見出していただければと考えております。

駆け足の説明となってしまいましたが、以上で説明を終わらせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

#### **高松委員長：**

ただいま事務局より説明がありましたが、各委員の皆様から、ご意見・ご質問ありましたらお願いいたします。

**今井委員：**

ふたつの種類の特徴の比較なんですけれども、この表を見ると圧倒的に樹脂製のいいところばかり書いてありますけれども、樹脂製の逆に言うと悪い点、悪い点というのも変ですが。磁器性のものに比べて問題点っていうのはどうなんでしょうか。

**事務局（岡参事）：**

PEN樹脂、樹脂性のものを想定しているからという訳ではないんですけれども、PEN樹脂、強化磁器、色々な形で確認してきました。

磁器性のものについては家庭の雰囲気、質感、触感、それを非常に重視する視点が大事だというご意見が非常に多くございます。

私どもの方で今現在使っているPEN樹脂なんですけれども、ご覧になって触っていただけたらわかるかと思うんですけど、やはり質感的には磁器と比べると劣るのかなと。我々が子どもの時に食べたプラスチックのようなそういう部分がまだ印象的には残っているのかなというのを感じます。

性能的には環境ホルモンですとかそういう部分については、いずれ両方ともクリアしておりますので、材質的な不安というのは正直今のところないのかなと判断しております。以上であります。

**今井委員：**

一点だけいいですか。廃棄される時の環境に対する影響っていうのは、やはり樹脂製の場合にはリサイクルするといっても現実ではリサイクルしている所はない状態で。日本国内ではですけど。中国なんかはそういう引き受けを中心としているところもありますけれど。

将来的な廃棄したときの環境への影響を考えていますか。

**事務局（岡参事）：**

正直申し上げまして、今現在ではその部分につきましては、全て100%の答えを出来る状況にはございません。ただPEN樹脂につきましては耐用年数が10年というふうに、一般的には言われております。

ただ10年使うとなると経年劣化と言いましょうか、そういう部分もございますので、そこら辺については10年よりも前倒しする形で食器の入れ替えの方をして参りたいと思っておりますし、廃棄の方につきましてはですね、近隣の自治体の方とも調整しまして、より環境に負荷がかからない形の対処法というのは検討して参りたいと思っております。以上です。

**高松委員長**：よろしいでしょうか。

**今井委員**：はい。

**高松委員長**：次の方をお願いします。

**得能委員**：

西部中の得能と申します。2点お願いしたいんですけど、まず1点目がですね、PEN樹脂とPP樹脂の違い、もし前にもお話されてるかもしれないけど、もう一度教えていただきたいのが一つと、この樹脂に関しては他市町村ほとんどPEN樹脂の中で、恵庭市だけはPP樹脂を使っているんですけど、なぜ恵庭市はPP樹脂を使っているのか、もし、わかっている事があれば教えていただきたいです、以上です。

**事務局（岡参事）**：

すみません。PEN樹脂とPP樹脂の差異についての資料の持ち合わせがないものですから、ちょっとお答えし兼ねる状況でございます。申し訳ございません。

あと恵庭市さんの部分ですね、こちらの方についても、なぜPP樹脂を選んだかという部分については、そこまで確認の方はしてございませんので、差し支えがなければ次回の分までには確認の方をしっかりとさせていただいてご答弁させてもらいたいと思います。よろしくをお願いします。

**高松委員長**：ありがとうございます。他ありますか。

**千葉教育部長**：

手持ちの資料で見ますと、PPとPENを比較した時の比較表を見ると、値段が一番安いのがPPなんです。価格がいちばん安価なものがPP。それ以外はPEN樹脂の方が全ていい。それぞれの条件というかですね。素材的には上回っているというような比較表となっております。逆にPPは価格だけが他よりも安価になっていると。

**得能委員**：製造過程の段階ではPPの方が安価で造れるのか

**事務局（須貝センター長）**：

化学物質的な成分の詳細についてはご説明できず申し訳ありませんが、PE

N樹脂はポリエチレンナフタレートという材質であります。

PPはポリプロピレンという材質になっております。

PEN樹脂は従来のプラスチック樹脂の強度を上げている部分ですとか、耐久性が優れているとかっていうところで、改良を重ねられた材質になっております。

**事務局（岡参事）：**

すみません、補足の説明をさせていただきます。

今、須貝からも話がございましたが、PEN樹脂につきましては、対比だけでお話いたします。耐熱の温度がやはりポリプロピレン、PPよりも優れているというような結果が出ております。

それと、環境ホルモンの関連であります、これも具体的な数字が出てないので細かなお答えが出来ませんが、これについてもやはり、ポリプロピレンはPPより評価としては高いというのは出ていますね。これは発ガン性の部分についても同様になっています。

今、須貝からもありましたけれども、ポリプロピレンをより改良を加えたものという風に、おおまかなイメージですけれども、捉えていただければよろしいのかなという風に思っております。以上です。

**高松委員長：**

この部分は次回の時にまた、食器等の情報があればご説明いただくということで。よろしいですか。

**得能委員：**はい。

**高松委員長：**

他、ないでしょうか。よろしいですか。

それでは事務局からもあったように、3回目の運営にもまたこの点について協議されるということですので、ご確認ください。

それでは、事務局から他にありませんか。

**事務局（齋藤主査）：**

前段でもお話ししましたが、次回の運営委員会ですが、9月末頃を予定しております。詳細日程は、近くなりましたらあらためてお知らせいたしますので、よろしく申し上げます。以上です。

**高松委員長：**

はい、ありがとうございます。全体を通して各委員の皆さまから何かないでしょうか。いいでしょうか。

それでは、以上をもちまして本日の議事はすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

**閉会（事務局 齋藤主査）：**

高松委員長、どうもありがとうございました。

皆様のご協力により、本日の議事を全て終了いたしました。これをもちまして第2回北広島市小学校給食運営委員会、北広島市中学校給食運営委員会を終了させていただきます。本日は夜分お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。